幕末の海防政策を担い、日本の産業革命を語り継ぐ近代化遺産

実際に大砲を鋳造した国内唯一の現存する反射炉

伊豆箱根鉄道の伊豆長岡駅から歩くこと約20分。のどかな田園風景の向こうに網目状の鉄骨で補強された煉瓦積みの煙突が見えてくる。韮山反射炉だ。150年以上もの風雪に耐えて辺りを見下ろすように建つ姿は威容を誇っている。

反射炉とは、不純物を含む銑鉄（せんてつ）を溶かして優良な鉄を生産する炉のこと。17世紀から18世紀にかけてヨーロッパで発達し、石炭などを燃やした熱をドーム状の天井に反射させ、それを一点に集中させることで千数百度の高温を発する。国内の反射炉は幕末の日本を外国の脅威から守るために、海岸に配備する鉄製の大砲を量産しようと建てられた。稼動をした反射炉で現存するのは韮山反射炉だけだ。

韮山反射炉の築造を進めたのは当時の伊豆韮山代官・江川英龍（ひでたつ）（坦庵（たんあん））。蘭学や西洋砲術などに秀でた坦庵が海防政策の重要性を幕府に説いて実現した。炉体には伊豆石が用いられ、内部の耐火煉瓦にも天城山の土が使われている。煙突を含めた高さは15・7mあり、1857（安政4）年の完成当時は煙突の表面をしっくいで仕上げていた。稼働したのは1864（元治元）年までの約7年間。その後、1922（大正11）年に敷地も含めて国指定史跡となり、2007（平成19）年には経済産業省の近代化産業遺産にも認定された。

明治日本の産業革命遺産として世界遺産登録を目指す

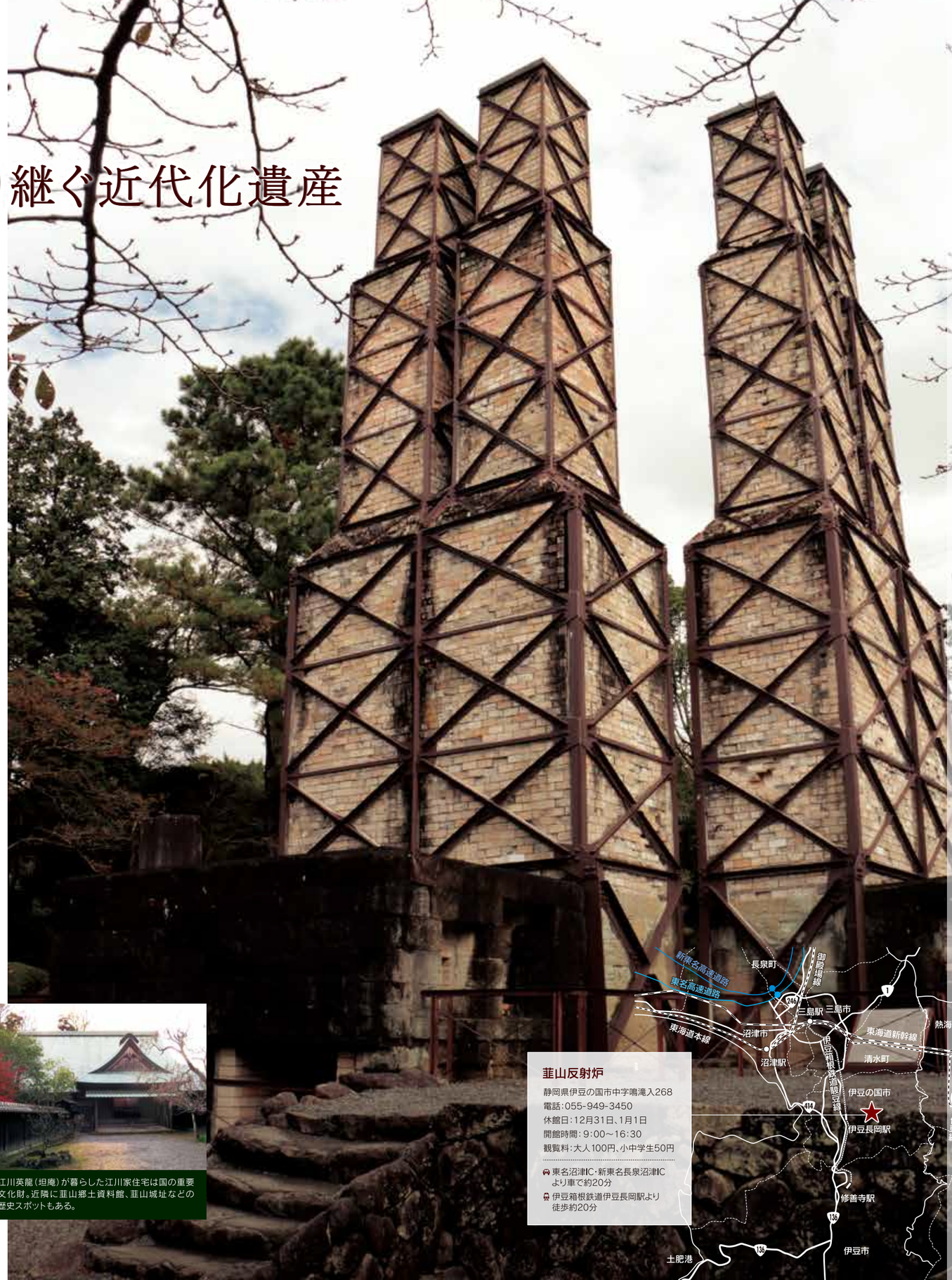
明治後期に早くも保存活動が始まった韮山反射炉は昭和32年に煙突を鉄骨で耐震補強。その後も継続的に保存修理が行われている。こうした活動は坦庵に対する地域住民の思い、あるいは坦庵が進めた「人づくり」と無縁ではないだろう。

平成26年1月、韮山反射炉が構成資産に含まれる「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界遺産候補としてユネスコに推薦された。27年6月に登録が決まれば、県内では富士山に次ぐ世界遺産となる。近隣には坦庵が暮らした江川家住宅（国指定重要文化財）をはじめ、国宝を所蔵する願成就院（がんじょうじゅいん）、北条氏邸跡（国指定史跡）などもあるだけに、界隈は世界的な歴史散策スポットになる可能性を有している。

炉体内部をのぞくと天井がドーム状になっているのが見える。黒い部分は煤が付着したところ。稼働したことを示す痕跡だ。

反射炉の脇に展示されている24ポンドの鉄製カノン砲（レプリカ）。これを量産することが韮山反射炉の目的だった。

江川英龍（坦庵）が暮らした江川家住宅は国の重要文化財。近隣に韮山郷土資料館、韮山城址などの歴史スポットもある。



韮山反射炉
静岡県伊豆の国市中字鳴滝入268
電話：055-949-3450
休館日：12月31日、1月1日
開館時間：9:00～16:30
観覧料：大人100円、小中学生50円
東名沼津IC・新東名長泉沼津ICより車で約20分
伊豆箱根鉄道伊豆長岡駅より徒歩約20分

静岡景観

韮山反射炉（伊豆の国市）

contents

01 [静岡景観] 韮山反射炉
03 [知事対談] 比較文明の視点から日本の在り方を考える。 東京大学名誉教授 伊東 俊太郎氏 対談
07 [次代を拓く] 清水農業協同組合
08 [花の都しずおか] ガーベラ
[静岡の食] メキャベツ
09 [ふじのくにの地域外交] 米国編 米国との地域交流によって国際社会でのプレゼンスを向上
11 [知事鼎談] 今求められる地域外交とは 元駐日米国大使 マイケル・アマコスト氏 ダニエル・スナイダー氏 鼎談
13 [アルカディア探訪] 熊（浜松市）
14 [旬のひと] 工学博士 月﨑竜童さん

◎表紙の写真
三保松原から見る世界遺産「富士山」

富士山は1年を通じて、気高く美しいが、そのなかでも正月の姿は特別な気がする。新しい1年への想いを富士山に重ねてみると、不思議と力が湧いてくる。そう、富士山は、私たちにとって希望や夢や目標そのものなのかもしれない。